

定形外
便り



「未来を思う職業人と中川根中学生」

文：川根高校魅力化コーディネーター
(地域おこし協力隊)

伊神花織

川根高校を中心に、学校での取り組みを魅力化コーディネーターの立場から、地域の方等へのインタビューを交えてご紹介します。



仕事への向き合い方から 自分のこれからを考える



中学生の時、自分たちが知っている職業はどれほどあったでしょう？たくさん新しい職業が増えている昨今、社会や地域も変化し、この町でも様々な働き方や職業の方がいます。そんな今の『職業人に学ぶ会』という学びの場を、中川根中学校で取り組んでいました。

3名の町内外、様々な職業人にトークしてもらい、インタビューや撮影を自ら行って『まちのお仕事図鑑』を作った中川根中の1年生。どんな思いで今の職業を選んだのか・仕事のやりがいなどのエピソードや人柄に触れる紹介も多く、距離の近い学び方ができたことが伺えました。

この会は、本町出身の先生を中心に3年前から取り組み、試行錯誤してきたそうです。インタビューや撮影のコツを教わる事前授業、ゲストの方との打合せなど工夫して準備され、先生方がこれからは生きる子どもたちへ、伝えたい思いも詰まっている活動だと感じました。それが「実際にその仕事についている人の話を聞くと、インターネットで調べるのとは違った」「自分もこの仕事がいい！と思えるような仕事につきたい」という生徒の声へつながっていると思いました。

仕事にかける想いを しっかり伝える



手に職がある職業だからこそ、実際の道具や技で仕事を伝えられて良かったと話す榎原さん

開始早々驚いたのが、『飲食業のこれから』というタイトルでした。『職業人に学ぶ会』の3人目ゲストとして、和菜食堂あけぼのの店主榎原広之さん（上長尾区）がお話されました。

職業講話というと、仕事内容やこの仕事を選んだ理由などのお話にとどまることが多い印象ですが、【これから】という未来に向けたメッセージが込められていることが、とても印象的でした。「この機会で、自分自身を振り返る時間をもらえました。コロナをきっかけに、自身の仕事への向き合い方も変わりました。視点を変えれば、どんな状況でも楽しめることを伝えられた」と今回のお話への思いを伺いました。

地域活動に参画することを、単に協力するというだけでなく、自身にとってもプラスにしようとする捉え方が、この町を発展させる鍵になると思いました。

伊神花織 (いがみ かおり)

愛知県出身。広告代理店の営業を経て、教育コーディネーターとして大阪・東京で小中学校のキャリア教育に従事。高校教育に関わりたいと思い、魅力化コーディネーターを志望して本町へ。本町にはバイクツーリングで訪れており、景色の美しさや町の方々の優しさに触れる機会が多くあり、以前から好きな場所でした！



川根高校のInstagram

伊神さんが更新川高生の様子から授業での豆知識まで発信

